

卒業式史上最年少の 学員スピーチ「贈る言葉」



中大卒業式でスピーチする大川氏

中央大学卒業式(3月25日午後)で学員祝辞者として登壇したのは、前年度卒業生の大川智矢氏(23)だった。史上最年少ともいえる若きOBの「贈る言葉」には、自らの力で明日を切り開いていく創意と工夫が込められていた。

■ 世界選手権 日本人初の金メダル

大川氏は文学部人文社会学科中国言語文化専攻。3年次の2013年11月、武術太極拳の第12回世界選手権大会(クアラルンプール=マレーシア)「剣術」部門で日本人初の金メダルを獲得した。「槍術」では銀メダル。初出場で表彰台に2度上がった。2015年の第13回大会でも「槍術」銅メダル。

武術はアジア競技大会で、1990年北京大会から実施され、近い将来の五輪採用を目指している。

2015年度卒業式(午後の部)会場の多摩キャンパス第一体育館は法学部、文学部、大学院の卒業生・修了生、保護者らで満員だった。酒井正三郎総長・学長の式辞、深澤武久理事長の祝辞。重鎮2人に続いたのが大川氏だ。場内の多くの視線はその

若さと精悍な顔に注がれた。

「入場するときから感じていました。『若いのがいるなあ』という声も聞こえてきて」。武術で心身を鍛えている。世界選手権出場などで肝っ玉は据わっている。「席に座って、周囲を見渡して、雰囲気慣れようとしていました」。司会者に紹介されて、いざ、演壇へ。紺の上着から取り出したメモを机上に広げる。赤いストライプのネクタイが映える。

スピーチでは中国語を勉強し、武術を習い、中国人とのよき触れ合いを述べた。

日本人が抱く最近の中国に対する独特の感情を自ら体験した中国滞在では、全くなかったと強調した。

大川智矢さん

中大文学部OB・武術太極拳アスリート



民間人レベルの交流が日中外交課題を超えているとも話す。「水滴、石を穿つ」といったところか。中国を理解すればするほど、武術の演武に表現されていく、と続けた。

分かりやすい言葉と優しい表情。体験談はずしりと重く、聴く人の心にストンと落ちた。聴講者は次第に魅入られていった。異例の若さが醸し出したのだろう、当初のザワザワ感はすっかり消えていた。

スピーチが続く。

「自分が何をしたいのか。何が好きなのか。シンプルな自分の軸は、何かを見失いそうなとき、自分を支えてくれるものとなります」

「グローバル化する社会で、みなさんはどんどん海外へ出ていくと思います。自分の目でナマの現場をぜひ確かめていただき、良いも悪いも受け入れ、自分自身の幅を広げてください」

自らは日中の架け橋になりたいと話するなどして、スピーチを終えた。終了時、初めて笑みがこぼれた。場内は拍手が鳴り止まない。保護者席か

写真／亀井宏昭



山本寛齋ショーで演武を披露する大川氏
(写真提供=株式会社オリハウオリ写真集事務所)



らは「若い人のスピーチもいいね」との声が入っていた。

「学長、理事長の言葉には重みがあります。私まで重かったら、皆さん、苦しくなっちゃいますよね。普段思っていることをお話しさせていただきます」



□ 武術太極拳

武術太極拳は中国発祥の競技で、1950年代に競技化された。採点方式で行われ、例えば跳躍して1回転半で得点となる。体操やフィギュアスケートに近い。主な種目は太極拳、南拳、長拳とあり、全日本選手権では競技部門6種目。五輪では技術力の高さを競う太極拳と長拳の実施を目指す。国際連盟に加盟する国と地域は146。中国、ベトナム、マレーシアなどではプロ化が進む。国内の競技者は7万人超、愛好者は健康志向の高まりにより100万人を超す。

■ 愛校心を胸に

卒業式・学員祝辞の打診は、都筑学文学部長からだった。都筑学部長との出会いは、世界選手権優勝の報告をするために表敬訪問した3年次の秋にさかのぼる。

卒業後には、文学部1年生を対象としたOB・OGによる講座『大学生の基礎』の講師を務めた。学外ではカンフーの講師もしていた。話し方には定評があった。昨年12月、文書による正式依頼を受けた。

スピーチの文案は一人で考えた。構成まで時間をかけずにできたという。卒業式終了後、中国言語文化専攻の共同研究室や文学部事務室などを訪ね、お世話になった教授や職員らにあいさつすると一。

人は変わっても言うことは同じだった。『あのスピーチ、本当に一人で考えたの?!』『誰かに見てもらったのかと思ったよ』。相次ぐ高評価の反応に、大川氏は「ちょっとうれしかったです」とほほ笑んだ。

自身は在学中、式典に縁がなかつ

た。入学式は東日本大震災のため取り止めとなり、卒業式は仕事の都合で出席を断念した。この日は思い出に残る祝典となった。「卒業してからも声をかけていただけるのはうれしい。これからも大学に尽くしていきたい、愛校心というのでしょうか」

中大時代は武術と勉強の両立を目指す日々。武術の活動はもっぱら学外だった。授業が終わると東京・江戸川区の日本武術太極拳連盟本部研修センターへ一目散。同センター最寄り駅のJR総武線新小岩駅へと急いだ。

多摩キャンパスから移動する約1時間半、電車内で中国語のテキストを開き、ヘッドフォンからは中国語会話を。

2年次には文学部の奨学制度「学外活動応援奨学金」を利用して、北京に1カ月ほど留学した。同連盟主催の北京・全日本強化合宿(年2回)にも毎年参加した。

「必死に勉強していました」。その^{かい}甲斐あって、中国人の友人・知人の輪が広がっていく。買い物の際、日本人とは思われず、「えっ、日本人!？」と驚かれたことも一再にとどまらない。

ことし6月、卒業後に勤務した会社を離れ、武術太極拳アスリートとして独立した。自らの教室を開き、競技の^{まいしん}普及・広報活動に邁進する。

チラシづくり、ホームページ(H P)の立ち上げ、そういったデザインなど全て一人の手作りだ。「けっこう得意なんです。山本寛齋さんが言っています。『世の中、マルチに行かな

卒業式史上最年少の学員スピーチ「贈る言葉」

きゃ』って」

世界選手権、全日本選手権出場のほかにも、トップデザイナー・山本寛齋氏のスーパーショーに出演して演武を披露。テレビCMの演武も話題になった。舞台や芸能活動へも進出し、活動の場を広げている。

「皆さんがいろいろと助けてくれます。武術をもっと知ってもらいたい。体が動けるうちはパフォーマンスもします」

太極拳は競技以外でも健康のた

め、伝統継承などで存在感を示す。「苦しいこともあるなか、なぜ武術を続けているのか。自分に問います」。答えはいつも同じ。「心の底から楽しく、大好きだから」

母親が健康目的で通った太極拳クラブに小学4年で参加した。中国語と中国文化に親しむ中で見いだしたのは、自らにあった大きな可能性だった。大川氏の今後にさらなる成長曲線が見て取れる。



2013年世界選手権優勝の表彰式、背中央が大川氏

大川氏は世界選手権を制した2013年、各競技のトップアスリートを表彰する「日本スポーツ賞」(読売新聞制定)の競技団体別最優秀賞を受賞した。内村航平(体操)や瀬戸大也(競泳)両選手らと肩を並べた。

全日本選手権 7月8日開幕

第33回 全日本武術太極拳選手権大会

(兼第9回アジア武術選手権大会=9月・台湾=日本代表最終選考会)

- ▽大会日程 7月8日(金)~10日(日)
- ▽会場 東京体育館(東京・千駄ヶ谷)
- ▽主催 日本武術太極拳連盟

大川氏を学員祝辞者に推薦した都筑 学文学部長(心理学)と

学生時代を知る飯塚 容文学部教授(中国語、中国文学)兼中央大学杉並高校長からひと言。



都筑 文学部長

応援しがいのある好青年。スピーチを頼んでよかった。

「どなたにお願いするかと考えたとき、大川さんの顔が浮かびました。在学中から、しっかり勉強して、いまも高い目標を持って活動しています。実力があり、学員祝辞者に適正と思い、推薦しました。

スピーチは壇上、彼の後方で聞いていました。内容には関与していません。とてもい

いスピーチで、頼んでよかった、推薦してよかった。

初めて会ったのは彼が3年生のとき、世界選手権優勝の報告に来てくれました。律儀で礼儀正しく、卒業式祝辞のほか、いろいろな席で彼を紹介しています。応援のしがいのある、好青年です」



飯塚 教授

彼は在学中から文武両道、努力の人でした。

「彼のスピーチはインパクトが強かったですね。聴いている卒業生が集中していました。関心が高かったということでしょう。これまでは考えられない人選でしたが、彼を抜てきたアイデアは成功した、と式典の最中にそう思いました。

学生時代の彼は真面目にコツコツ努力す

る、文武両道の人という印象です。受け答えもしっかりしていました。中央大学のみならず、文学部、そして中国言語文化専攻の誇りです。

彼は都合で自分の卒業式には出られなかったけれども、今回のスピーチは補って余りあるものでした。今後も活躍を期待しています」